

平成 16 年 3 月 26 日

平成 15 年度石川県内地留学研修報告書

小学校における批判的思考力の育成
- 自己モニタリングを取り入れた学習過程 -

上越教育大学大学院 教科・領域教育専攻

言語系コース（国語）

廣田恵子

1 研究の目的

情報化社会を生きていく上で情報を収集・判断・選択し、加工・創造し、伝達することは、情報活用能力を育成する問題解決学習の過程をたどることであり「生きる力」を高めることにつながる。この過程で、自分自身の思考を吟味する批判的思考力が必要となる。

本研究では、国語科での問題解決学習力の基礎を育成する単元と、社会科単元を連動させた授業を構想し、批判的思考力を高める自己モニタリングの視点を学習過程に取り入れる。また、自己モニタリングするために、情報カード、振り返りカード、情報交換などの手だてを用い、手だての有効性を児童のアンケート、抽出児のインタビュー記録、カード・ワークシートの記述から考察する。

2 論文の構成

序章 研究の目的

第1章 小学校における批判的思考力

第1節 批判的思考力の定義

第2節 小学校の学習過程における批判的思考力の意義

第2章 批判的思考力を育成するための自己モニタリング

第1節 自己モニタリングの定義

第2節 自己モニタリングの有効性と課題

第3節 自己モニタリングを取り入れた学習過程

第3章 学習過程に自己モニタリングを取り入れた連動指導

第1節 連動指導の意義

第2節 自己モニタリングと連動指導

第3節 国語科と他教科との連動指導

第4章 批判的思考力を育成する授業構想

第1節 授業の実際

第2節 授業の考察

終章 研究の成果と課題

第1節 研究の成果と問題点

第2節 授業の改善点

第3節 今後の課題

3 研究の概要

(1) 小学校における批判的思考力

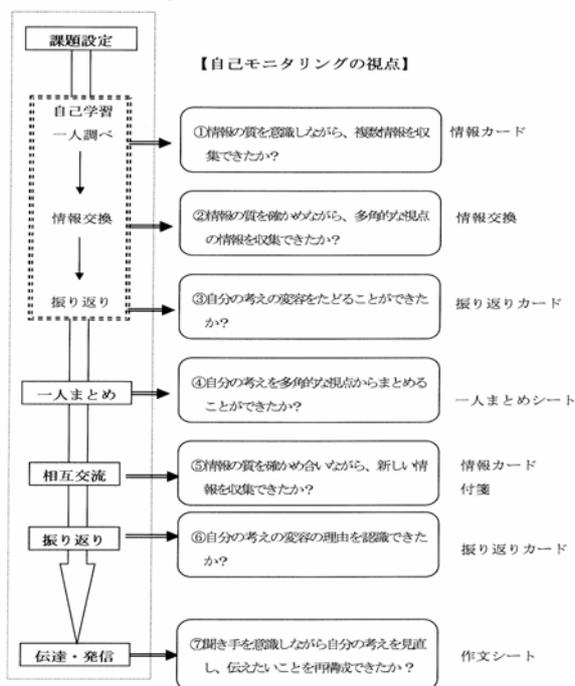
自分の学習過程や考えを意識的に吟味する反省的な思考を批判的思考力とし、問題解決するための手段や方法を学んでいく。問題解決過程で情報を多角的に見ることや自分自身の学習過程や考えを見直すことが、批判的思考力を育成することになると考える。小学校では、問題解決学習の基礎的な要素を国語科で学びながら、総合的な学習の時間や他教科の単元と連動させていくことにより、より批判的思考力が高まると考える。

(2) 批判的思考力を育成するための自己モニタリング

モニタリングは、色々な要素が双方向に相

相互作用し機能している。問題解決学習過程において、自分の考えや学習過程をモニターし、

【問題解決学習過程】



修正することを自己モニタリングと措定し、7つの視点を設定した。

また、自己モニタリングを機能させる手だてとして、カード類・情報交換・ワークシート等を使用する。

(3) 学習過程に自己モニタリングを取り入れた連動指導

学習者に自己を相対化させ、「生き方知」を学ぶ連動指導での「読む」「転移させる」「書く」の一連の活動の中で「転移させる」ことは、情報の評価・整理・再構成・関係付けをする上で、最も思考力が必要とされる。学習者の内部に蓄積される情報をより多く収集し、選択・判断することで他との比較ができる視点を持つ。このことは自己モニタリングすることによって内部への批判的思考が育ち、外部の情報への批判ができることにつながると考える。国語科は、情報の受け手、読み手、送り手の情報活用能力を養う単

元を学習する。具体的な場面で互いに各教科を連動させることによって相乗効果があると考ええる。

(4) 批判的思考力を育成する授業構想

社会科の「米作り」の単元と、国語科単元の「言葉の研究レポート」「読む人のことを考えて」「より確かな情報を」を連動させることとした。授業では、自己モニタリング視点を設定し、学習者自身の課題に対する考えがどのように変容していくかを情報カード、振り返りカード、ワークシート、情報交換などを手だてとして取り入れることで、批判的に思考する学習過程を構想し、実践した。

(5) 研究の成果と課題

成果として、以下の点が挙げられる。

- ・情報カード、情報交換は問題解決過程において学習者の必要感が高く、自己モニタリングの手だてとしての有効性も高い。
- ・振り返りカードは学習者の必要感は低かったが、カードの種類を個に応じて選択できるようにすること、自己学習の時間設定を工夫することによって有効性は高まる。

また、問題解決の学習過程を繰り返し経験することによって自己モニタリングの効果は螺旋的に高まっていくと考える。

今後の課題として、連動させる教科を学習者の実態に合わせた年間計画 学年間の系統性と有効性 自己モニタリング視点の汎用性が挙げられる。自己モニタリング視点は問題解決過程の場合でのモデリングである。今後年間計画や系統性を探っていく過程でいくつかの視点を組み合わせることにより、小単元学習にも汎用が可能だと考える。これらのことは年間を通して実践するなかで明らかにしていく必要がある。

指導 有澤 俊太郎教官